

# 標茶町議会第3回定例会

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
2番	櫻井一隆	1. 茅沼駅の存続を求める	<p>J R北海道は、利用者数が少ないことを理由に不採算駅を廃止してきた。この度も、無人駅であり、1日当たりの利用数3人以下を廃駅の対象基準としていて、釧網線では美留和駅、緑駅も対象になっている。</p> <p>今後も地方の駅はどんどん切り捨てられ、草や木が生い茂り駅の面影もなくなる。私はこの地方切り捨ての現実を見ると激しい憤りと失望を感じる。</p> <p>標茶では平成29年3月に五十石駅が廃止となった。</p> <p>さらに今年6月17日の道新によると、茅沼も廃止で検討中とある。</p> <p>町長は「聞いていない。寝耳に水だ」と驚愕しつつコメントを出している。町民も心配しているので質問をする。</p> <p>①町は今日までJ Rとどのような折衝を重ねてきたのか。時系列的に説明を求める。</p> <p>②茅沼駅の存続を望むなら、町民の理解と協力を得ることが大切と思うが、どのようなことを考えているか示すべきと思う。存続案は。</p> <p>③駅の廃止は、今、建設中の温泉宿泊施設の営業と集客にも多大な影響を与えるし、経営収支も悪化させる要因になると思うが、町長の考えを伺う。</p>	町長	
		2. 町立病院浴室の早期改修を	<p>レジオネラ菌の発生で、昨年10月より町立病院の浴室は使用ができず、ふれあい交流センターの浴室を時々使うなど、入院患者には不便をかけ、また、看護、介護職員には多大な負担をかけ続けていると思うが町長の所見を聞く。</p> <p>また、使用できなくなった町立病院の浴室は、このまま放置し続ければ汚れや痛みがさらに進み、保健衛生上もよくないと考えるが、使用できなくても定期的に清掃管理するべきと考えるがどうか。</p> <p>病院の浴室は必要不可欠な設備であると思うが、いつごろまでに改修を行うのか。レジオネラ菌解消などの課題も含めて、今後はユニットバスのようなものにしてはどうか。この方が改修工事としては期間も早くできるのではないかと考えるが町長の所見を聞く。</p> <p>予算の課題もあると思うが、大切な町民の命を守る病院の問題でもあるので、優先的にこの課題に取り組むべきではないかと考えるが町長の所見を聞く。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
5番	鴻池智子	1. 带状疱疹ワクチン予防接種費助成すべき	皮膚に赤い斑点などができ激しく痛む带状疱疹は80歳までに3人に1人が罹患するとされる病気ですが、予防効果の高い不活化ワクチンは1回目で約2万円、2回目接種が必要となるため、約4万円と高額となります。この病気は多くの場合、皮膚症状が治ると痛みも消えるが、神経の損傷によっては带状疱疹後神経痛と呼ばれ、また部位によっては角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などの合併症を引き起こします。ワクチンの予防効果は50歳以上で97.2パーセント、70歳以上で89.8パーセントとなる。予防接種は任意ではあるが、対象者には大きな負担となる。道内では渡島管内七飯町、オホーツク管内西興部村、近隣自治体では標津町、白糠町が一定年齢以上の住民に対し一定額の助成をする制度を設けている。そこで①対象者への大きな負担となることに対し町はどのように考えているか、②町独自の助成をするべきと考えるがその考えはあるかを伺う。	町長	
		2. 観光案内所のトイレを改修すべき	現在、標茶駅横にあるバスターミナルの一部を、町観光協会の観光案内所として使用しています。施設内トイレが駅側から入室し、すぐ左を見ると男子トイレ内の一部が見えてしまう状況になっている。トイレ前に大きな衝立があるが、まだ一部分見えています。トイレを利用する人にとっても状況的によくないと思う。新型コロナウイルス感染症も5類に移行され観光客も増えてきている。冬になると「SL冬の湿原号」も運行され多くの人々が訪れてくれると思います。トイレも老朽化し、傷んでいる箇所もあります。今後の観光のことも考えトイレの改修を行うべきと思うが、町としての考えを伺う。	町長	
1番	深見迪	1. 小中学校女子トイレ個室に生理用品を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年の6月第2回定例会で同様の質問をしたが、町は①「生理の貧困」は支援が必要である。②学校のトイレに生理用品を置くことは否定するものではない。③現状では考えていないが町としても問題と認識しており、今後検討していきたいと答弁した。その後どのような検討をしたのか。</li> <li>・ 「学校に生理用品を」の動きはその後全国的に広まりつつある。その現状をどのように認識しているか。</li> <li>・ この8月に行われた道交渉では、「小中学校トイレに生理用品を配置するよう各教育委員会に指導すること」と要請したが、道教委は次のように回答した。①道教委としては、学校トイレへの生理用品の配置は、全ての子どもたちが心身の健康を維持し、安心して学校生活を送ることができる環境整備の一環との認識のもと、令和5年度から道立学校のトイレに生理用品を配置することとしました。②生理用品の配置についてですが、また、全道の学校に取組が広がるよう、本事業にお</li> </ul>	教育長 町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	深見迪		<p>けるモデル校の取組の概要、モデル校別の取組事例並びにモデル校以外で既に取り組を進めている学校の事例等について、取組事例報告書としてとりまとめ、各市町村教育委員会に通知しております。なお、既に、複数の市町村から、配置に向けた具体的な照会があり、必要な支援に努めたところです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この回答では、必要であることを認め道立学校を先行して行っている。紹介のあった市町村には必要な支援に努めたとあるが、本町では1年以上も前の質問に対し検討すると答弁しているので、道教委に対して当然必要な取り組みや検討をしていると思うがその状況を聞きたい。</li> <li>先日もテレビで特集をしていたが、実施した学校の女子生徒が「急に来た時には本当に助かる」「1日に何回も取り替えなければならないときもあるのでほっとしている」など喜んでいて、保健室に行かず、ダイレクトで自分でできることに安心している様子が話されていた。いわゆる「生理の貧困」に限らず、すべての女子生徒に対する安心な学校生活を送ることの保障と考えるがどうか。</li> <li>費用についても実施した学校では、1校につき5万円～10万円程度との報告がある。それほど多額の金額ではないと考えるがぜひ早期に実施すべきではないか。町長の所見を聞く。</li> </ul>		
		2. 現行の健康保険証の廃止はすべきではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイナンバーカード総点検の中間報告が発表された。マイナンバーカードと一体化した保険証に誤って他人の個人情報登録されていたケースが新たに1069件で計8441件、医療費や薬など診療情報が他人に閲覧されたケースが新たに5件で、15件となっている。このようなケースは、現在でも増えつつある。マイナンバーカードと一体化した保険証に他人の医療情報がひも付けされていることは、命にかかわる重大問題だ。町長の所見はどうか。</li> <li>中間報告について、全国保険団体連合会は「他人情報紐づけ1069件は氷山の一角だ。全件チェック・全容解明まで運用停止を求めます」との声明を発表し、「これ以上の情報流出、プライバシー侵害を防ぐために直ちにマイナ保険証を利用するシステムの運用を停止すべきです」と訴えている。この訴えについての町長の所見を聞く。</li> <li>マイナ保険証について北海道社会保障推進協議会が札幌市内で行った内容では、2日間で約600人がシールアンケートに協力し、96%が反対と答えるなどの実態もある。また今年6月に、厚労省では、マイナンバーカードと健康保険証が一体化した「マイナ保険証」の利用実態に関するアンケート調査結果を公表した。マイ</li> </ul>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
1番	深見迪		<p>ナ保険証の利用者にメリットを聞いたところ、56.5%の人が「特になし」と回答。政府は2024年秋に現行の保険証を廃止する方針だが、利点を感じていない利用者が多い実態が明らかになった。この点についての町長の所見はどうか。また、本町のマイナ保険証の取得率はどのくらいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカードの自主返納が増えていると聞いているが、返納の仕方について自治体のHPで告知しているところもある。申請だけではなく、不安を感じる人が返納できることについて適切に周知・対応すべきではないか。</li> <li>・このようなことから町の行き過ぎたマイナンバーカード取得の宣伝はすべきではない。もし、マイナンバーカードに係る町民の不利益が生じたら町はどのような責任を持つのか。</li> <li>・町は、町民のプライバシー保護や命の危険をも生じかねない今回の事態に対して、マイナ保険証を取得していない町民の不利益、不便さを考え、現行の健康保険証の廃止はすべきではないことを国に要請すべきと考えるがどうか。</li> </ul>		
		3. 学校の熱中症対策は万全か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月22日道内の小学校で体育の授業後、不幸にも熱中症で2年生が亡くなった。8月25日、本町は35.1度で観測史上最高気温を記録した。これは平年差で11.9度も高い気温であった。これは全道174観測地点の中で17位であり、1位の足寄より1.3度程度しか低くなかった。町の中でも「今日学校休みでないのですか」との声もあった。この日の児童生徒に対する熱中症予防や学校としての対応はどうであったのか。</li> <li>・環境省・文部科学省では「学校現場における熱中症対策の推進に関する検討会」を開催し、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」を作成することにしたが、本町では昨今の地球沸騰化ともいわれる暑さ対策としての学校のガイドラインを作成しているか。</li> <li>・気温だけではなく暑さ指数(WBGT)の測定はどのように行い、教職員への伝達体制はどのようになっているか。</li> <li>・過去最高気温であった8月25日の暑さ指数の数値はどうであったのか。この日は、熱中症予防運動指数が上から2番目の「厳重警戒」であったと思うが、そのような認識で手立てをとったのか聞く。</li> </ul>	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
10番	渡邊定之	1. ふれあい交流センターふれあい浴室廃止に伴い入浴券の発行を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあい交流センターのふれあい浴室が老朽化のため今年の10月で廃止されるが、廃止後の活用についてどのように考えているか。</li> <li>・この浴室は、標茶町ふれあい交流センター管理運営規則では、健康増進を目的として行う業務のひとつであると位置づけられ、その対象も70歳以上の町民及び障がいのある人等となっており、高齢者、障がい者福祉の重要な本町の施策であると思うが町長の所見を聞く。</li> <li>・11月からふれあい浴室がなくなることから町民の間でも、不安の声も出ている。入浴券など発行し、従来に近い形で民間の浴場を活用できるようにしてはどうか。</li> </ul>		
		2. 学校、病院、高齢者などの熱中症対策について	<p>気候変動による影響が身近な問題として迫ってきている。本町においても観測史上最高の気温を計測、学校、病院、老人施設での熱中症などによる対策はどのように行っているのか伺う。</p> <p>今後、地球規模での温暖化が進み今年のような気候が当たり前になるとも報道されているが、公共施設等に置ける対策はどのように考えているか具体的な構想があれば伺う。</p> <p>町民からの訴えとして、学校の教室、患者の病室にクーラーの設置ができないのか伺う。また、一人暮らしをしている高齢者の健康調査などはどのようにしているのか伺う。</p>	町長 教育長	
9番	松下哲也	1. 学校給食の牛乳の飲用状況は	<p>学校給食に於ける牛乳の利用は長年にわたって続けられてきている。牛乳は栄養価が高く、カルシウムやタンパク質など重要な栄養素を含んでいるため、成長期の子供たちにとって重要な飲み物であると理解している。また、消費拡大の観点から経費の半分は標茶町農協が助成していることも承知している。最近、児童、生徒の保護者から給食時の牛乳を飲まない子供が多いという話を聞くことがある。アレルギーなどの個別の事情や制約を除いて飲まれている状況はどうか。</p> <p>また、個別の事情、制約のある場合の代替の飲み物は提供されているか。提供されていればどのようなものがあるか。</p> <p>牛乳を飲んで栄養的に充足されるものと理解するが、現在の状況に対し教育長の所見を伺う。</p>	教育長	
		2. 猛暑日に於ける、園児、小中学生の安全確保は	<p>今年、北海道は41日連続の真夏日を記録した。特に2学期が始まってからも暑い日が続き、本町でも8月25日には観測史上最高の35.1度を記録した。また、道内で授業後に児童が熱中症で亡くなるという起きてはならない大変痛ましい事例があった。このことを受け道教委から指示があったと思うが、本町ではどのような対応策を</p>	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
9番	松下哲也		<p>取ったのか伺う。</p> <p>近年、温暖化により気温の高い日が増加してきているが、今後も予断を許さない状況が続くと思われる。道東地方はエアコンの必要がない地域と言われてきたが、近年、一般家庭に於いてもエアコンの設置が急速に増えてきている。児童、生徒の安全かつ健康的な学習環境を確保するためにエアコンの設置を検討すべきと考えるが教育長の所見を伺う。</p>		
10番	長尾式宮	1. 町内プール施設の今後の方向性を打ち出すべきでは	<p>町内には町営プール施設が点在している。常盤にある町営プールに至っては46年が経過し、老朽化が著しい状況である。そのほかのプール施設も同じような状況と聞いている。</p> <p>以前から各地域でプール施設の今後の在り方を話し合っているが現在どのような内容が検討されているのか。一意見として、「地域の合意が得られれば、市街地に統合して誰もが使いやすい複合施設にしてはどうか。」との意見も聞いている。</p> <p>地域住民の意向が最優先であることは変わらないが、それぞれの施設が更新時期を迎えるにあたって、町として方針を打ち出す時期に来ているのでは？町の方針を伺う。</p>	教育長	
		2. 地元企業の積極的な投資の推進・企業誘致に戦略的な施策を	<p>現在標茶町の人口は7,000人を割り込むまで時間の問題となっている。町の産業が酪農業を中心とした1次産業であることは変わらないが、人口が減ることにより、町内経済が先細りしてしまう状況である。人口減少によって経済の流動性・物流の停滞を招いてしまう。非常に残念だが近々撤退する企業もあると聞いている。</p> <p>「安心・安全なまちづくり」の根底には経済的に「豊かなまちづくり」があつてしかるべきである。</p> <p>今まで町として地元経済の推進にどのような方策であたっていたのか。また人口減少を食い止めるには今まで以上に企業誘致も必要と考えるが所見を伺う。</p>	町長	
11番	類瀬光信	1. 「ふるさと納税」は商業振興に活用すべきだ	<p>超高齢化社会の到来によって、ネットへの対応や運転が困難な「買い物難民」が増加している。町民にとって、特養や病院がフル稼働していない状態であることが、老後の不安材料となる中、追い打ちをかけようとして郊外の大型店が本町からの撤退を表明したことが「買い物難民」の不安を大きくした。この大型店撤退の影響について、町はどう分析し、具体的にどう対応するのか。町内では商店の数が減少している。高齢者が徒歩で買い物ができるといわれる半径200m圏内に商店がない地域が増えつつある。町民の日常生活を守る最後の砦をどう維持しようとしているのか。また、「ふるさと納税」を利用する町民がいることで「失われたふるさと納税」がある。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	類瀬光信		<p>このことが、食品や嗜好品に関する商店の売り上げを削っている可能性がある。「ふるさと納税」の恩恵を受ける事業者がいる一方で、売り上げを減らす商店があるのではないか。こうした観点から、「ふるさと納税」のうち用途を指定しない寄附を商店が生き残るための「商業振興策」と、本町の観光をけん引する「SL冬の湿原号」や「ノロッコ号」で標茶町を訪れる観光客をもてなすための「駅前商店街の環境整備」に充てるべきだ。さらに「ふるさと納税」は、老朽化した商工会の物理的機能強化と、周辺住民の避難拠点確保の性格を併せ持つ「複合施設」を駅前商店街に整備するための財源にもなり得る。商店へのでこ入れによって、持続可能な商業経済圏を堅持し、町民の、特に高齢者の日常生活を守るために「ふるさと納税」を有効に活用すべきではないか。</p>		
		2. 公共事業における地元調達率を高めるべき	<p>経済を水が満たされたバケツに例えることがある。地方自治体の場合、その多くはバケツに穴が開いていて、地場産業の利益が地域内で循環することが少なく、バケツの外側の業者を潤しているといわれる。これが「漏れバケツの経済」といわれる構造だ。本町の場合、基幹産業である酪農に関連する産業の多くはバケツの外にある。そのため、250億円近い生産高を誇りながら、地域内で循環するお金は限定的で、典型的な「漏れバケツの経済」となっている。そんな中、クリーンセンターの建設以降、標茶中学校校舎・講堂、給食センター、釧路湿原かや沼観光宿泊施設と、それぞれ10億円を超える大型の公共事業が続いた。主体工事の大部分を釧路市内の下請け業者が担っているのは、本町の建設業界の実態からやむを得ない。しかし、木材や建築資材を取り扱う事業者を始めとする関連業界では、数年の間に50億円を超える公共事業が町内で、しかも町内業者によって行われたという実感が全くないという。先に述べた10億円を超える公共事業のうち、直近に完了した「釧路湿原かや沼観光宿泊施設」の大規模改修について町は、その経済効果を事業費の2倍以上と試算している。このことから、ここ数年の大型公共事業は単純に100億円以上の経済効果を生んでいたことになる。一連の公共事業における「労働力」、「輸送」、「燃料」、「資材」等について町は、町内からどの程度調達されたかを把握しているか。また、公共事業における現地調達率を設定するなどして、町民の血税を原資とするバケツの水が一滴でも多く町内で循環し、関連業界をひいては町民の生活を潤す仕組みを一刻も早く構築すべきではないか。</p>	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
4番	鈴木裕美	1. 茅沼駅の存続を求めるべき	<p>6月17日付北海道新聞はJR北海道が無人42駅の廃止を検討していると報道した。42無人駅廃止検討中の中に茅沼駅が入っていた。</p> <p>茅沼駅はタンチョウヅルが飛来する駅として全国でも話題となり、過去にはTVでも全国放送されて観光客やアマチュアカメラマンにも人気の駅として知られている。</p> <p>茅沼駅が廃止になることは、来年オープン予定の釧路湿原かや沼観光宿泊施設の営業にも影響を与えるのではないかと考えるが、これまでどのような協議を行ってきたのか。</p> <p>また、茅沼駅の維持管理費をどの程度とみているのか。</p>	町長	
		2. Aコープしべちや店店舗の利活用は	<p>10月15日をもってAコープしべちや店が閉店なることが明らかになっている。</p> <p>閉店を残念に思う消費者は少なくない。また、町民の消費活動や利便性にも影響があると考えるが、町長はどのように考えているのか。</p> <p>建物の所有はJAしべちやだが、JAからの説明や店舗、活用についての協議の申し入れはあるのか。</p> <p>以前から生産者の一部から地場産の食品等を作っても販売場所がないとの声を聞くが、加工・物産店として利活用ができないか、JAとの協議を進めるべきと考えるがいかがか。</p>	町長	